

**関西
ステンレス**

横ばいも品薄感強まる展開に

(大阪) 関西地区のステンレススクラップ相場は模様眺め。ミル各社の制限購入と指標ニッケルの軟調推移で市中の弱気感は完全には取り除かれていない。しかし、慢性的な発生薄と輸出市場への流出で、この先は本格的に夏枯れの時期に入るため、市中は品薄感を強める格好にある。需要低迷が続く中だが、品薄感の拡大が相場のけん引材料となる可能性が浮上してきた。

国内ミルの買値はキロ175~185円見当で変わらず。受注不振に改善は見られず、7月も減産基調でスクラップの制限購入が継続。ただ、高炉系大手などは先行きの入荷難に対する警戒感を示し始めている様子だ。深刻な発生薄に加え、輸出流出と海外対比での日本玉の安値に対し、直近の交渉では複数の直納筋が「買値を底上げする必要性を訴えた」という。需要家側は一定の理解を示しつつも、現段階では表立った対応は見送られている模様で、今後の動向に注目が集まる。

ある商社筋は「足元のニッケル、為替、鉄スクラッ

プ、フェロクロムの価格から算出した304スクラップ価格は100%の評価率(バージン価格)でキロ370円前後。60%の評価率で220円、50%の評価率で185円程度だ。韓国大手ミルの買値も60%には満たないが、日本玉の評価率が極端に低く抑えられている」と話す。日本玉の割安感がつづけば、海外流出がさらに加速するため、この先は供給不足の懸念がより強まっていく可能性があるという。

LMEニッケル・ステンレススクラップ相場推移

	LMEニッケル相場 (月平均) \$/MT	LME Ni在庫 (期末/t)	ASIA-SABOT \$/MT	フェロクロム相場 高炭素品・φ/LB	為替相場 (TTS)
2020年平均・合計	13,773	246,708	1,198	118.75	107.82
2021年平均・合計	18,478	101,886	1,659	160.38	110.80
2022年平均・合計	25,638	55,476	1,929	189.25	132.43
2023年1月	28,240	49,374	1,730	157.00	131.35
2月	26,690	44,148	1,660	157.00	133.75
3月	23,307	44,364	1,490	157.00	134.92
4月	23,757	39,918	1,470	180.00	134.40
5月	22,230	37,782	1,460	180.00	138.43
6月	21,193	38,850	1,440	180.00	142.27

台湾のSUS₃₀₄輸入7カ月連続2万トンを超え 4月2万2千トン

台湾のステンレススクラップ輸入量が7カ月連続で2万トンを超える実績となり、回復基調で推移している。台湾貿易統計によると、4月の輸入量は前月比2.9%減、前年同月比2.5倍の2万2421トンだった。米国からの増勢に一服感が出たものの、ベトナムや日本からの輸入量が前月から大幅に増加。全体量は7カ月連続で前年実績を上回った。

輸入先で最多だったのは米国からで同30.4%減、同35.7%減の7,136トン。次いで、ベトナムからが同95.1%増、同11.6倍の4,186トン。日本からが同50.8%増、同12.0%減の4,113トンでつづいた。

台湾のステンレススクラップ輸入量推移

輸入先	台湾のステンレススクラップ輸入量推移 (単位:トン)						
	2021年 (暦年)	2022年 (暦年)	2023年 1月	2023年 2月	2023年 3月	2023年 4月	2023年 (累計)
米国	43,181	36,173	7,014	10,288	10,248	7,136	34,686
日本	79,684	35,761	902	1,793	2,728	4,113	9,536
オランダ	6,727	8,183					
オーストラリア	15,099	18,089	1,412	925	2,989	2,975	8,301
タイ	11,629	4,852	638	940			
香港	7,035	5,488	1,045	766	1,016	495	3,322
ベトナム	3,571	4,552	2,136	2,042	2,146	4,186	10,510
韓国	7,117	5,673		357	61	69	487
インドネシア	904	708	48	214	154	134	550
マレーシア	3,696	4,309	446	287	355	625	1,713
フィリピン	4,814	4,504	445	381	550	161	1,537
その他	7,321	16,823	11,033	2,289	2,848	2,527	18,697
合計	190,778	145,115	26,119	20,282	23,095	22,421	90,917

1~4月の累計輸入量は9万9177トンで、前年同期比2.8倍となった。

富士興産、大阪府から「脱炭素経営宣言登録事業者」として登録

(大阪) レアメタルやレアアースのリサイクル事業を手掛ける富士興産(本社=大阪市浪速区、赤嶺和俊社長)はこのほど、大阪府から「脱炭素経営宣言登録事業者」として登録を受けた。

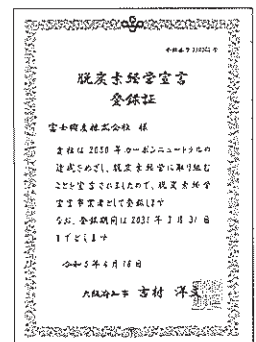
同制度は、大阪府が商工会議所や金融機関などと連携し、取り組みの状況に応じた最適な各種支援を行って、脱炭素経営を促進させることを目的に創設した。

同社では大正工場・倉庫(大阪市大正区)の屋根に太陽光発電パネルを設置し、再生可能エネルギー由来の電力を活用。さらに一部の営業社用車には、水素エネルギーで動く燃料電池自動車を採用するなど、CO₂の削減に努めている。

また現在は、SBT(パリ協定が求める水準と整合した企業の温室効果ガス排出削減目標)認定を取得する

ため、年間のCO₂排出削減率4.2%を目標に掲げている。赤嶺社長は「引き続き、車両と設備の燃料や電力の消費に伴うCO₂排出量をチェックし、削減目標達成に向け努力する」と話す。

同社は昨年9月にSDGs宣言を公表。それに則ったりサイクル事業も心掛けていくという。「SDGsを遂行することで、会社の利益にもつなげられると考えている。社会貢献とリサイクル事業の両立を目指し、会社を成長させたい」と今後について考えを示している。



脱炭素経営宣言登録証